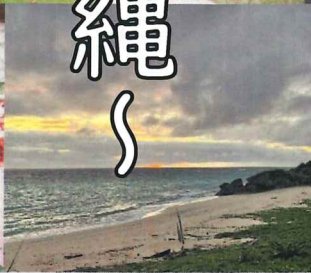
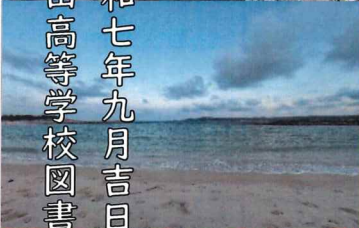
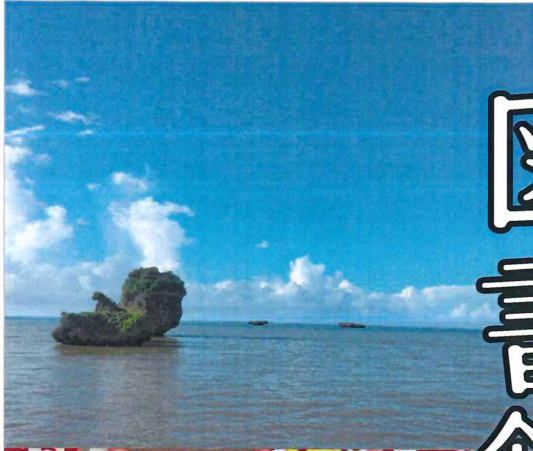


図書館だより ～ 沖縄 ～



令和七年九月吉日・第一〇二号
成田高等学校図書館委員会発行

『気象・気候からみた沖縄ガイド』

著者 真木太一 発行 海風社

三下 大内祐晴



う思いから、この本を選びました。

沖縄県の多くの島は年平均気温が二二℃を超え、また、年降水量二〇〇〇mmを超え、高温多湿に加え、熱帯夜は三か月も続きます。しかし、意外にも冬は曇雨天が多く肌寒いそうです。沖縄といえば台風風のイメージが強いと思いますが、台風以外の自然災害にも沖縄が苦労していることがあります。それは干害です。沖縄は降水量の年々の変動が大きく、地形・地質的な条件で安定した水量が得にくく、気温が高いために、地面・植物からの蒸発散が多いことで、干ばつに陥りやすいです。また、河川がほとんどないことも関係しています。しかし、都心部では住宅の屋上に貯水タンクを整備して、渇水対策を行っているそうです。ここまで沖縄

の敬遠されているところを挙げてきましたが、もちろん良い点もあります。

沖縄は高温多湿の気候を活かして、サトウキビ、マンゴー、パイナップル、パパイヤ、バナナ、シークワーサー、ビワなどの南国のフルーツを栽培しています。これは沖縄のような気候の地域にしか栽培できないものだと思います。自然災害や虫の影響によって作物がダメになってしまうのではないかと思いうかたもいるとおもいますが、近年では栽培技術の向上により品質のいい状態のものが安定して取れるようになってきています。また、コーヒー、紅茶の栽培も進められています。このように農業面で大きなポテンシャルを秘めていると思います。

また、観光資源において日本では沖縄は指折りだと思っています。なぜなら、海の透明度が高く、サンゴ礁も発達しており、マンダロープなどの亜熱帯多雨林は日本では沖縄にしかありません。また、生物の多様性も高く、ジャングル好き、生き物好きにはとても魅力のある場所だと思います。

この本は、沖縄の気象・気候から考えられる要素がとて深く書かれており、あらゆる視点から考察されていると思います。実際のデータや数値を使って考えを掘り下げた取り組みがされていて、地理的、数学的に物事を考えることが好きな人に強くお勧めしたい本だと思いました。